
サンパウロ大学 交換留学 月例報告書（8月）

国際文化学科 3 年

自己紹介

はじめまして。私は半年間、ブラジルのサンパウロ大学（USP）に交換留学しています。
USP では、“^{ウスビ}FFLCH”^{フェフェレッシ}と呼ばれる人文科学部に所属しています。SUAC では、日本語教育を主専攻とし、多文化共生について学んでいます。「地元・浜松の多文化共生政策に携わる」という夢があり、浜松はブラジルにルーツをもつ人が多いことから、SUAC でポルトガル語の勉強を始めました。

これから毎月、私の留学生活について報告していきます。ブラジル留学の魅力をお伝えできればと思います。



留学を決めた理由

留学を決めた理由には、私の人生において外せないエピソードがあるので、ここに記しておこうと思います。

① 令和4年度ブラジル青少年派遣事業での経験

大学1年生の時に参加したこの派遣事業では、サンパウロ市内の博物館・美術館の見学や、文化施設での日本文化の発信、在サンパウロ静岡県人会との交流をしました。ブラジル文化や、世界最大であるブラジルの日系社会の一端を学び、ブラジルへの関心が高まりました。

② ご先祖様がブラジルに移住していた

実は、この事実を知ったのは、前述した派遣事業で渡伯する1カ月前でした。派遣事業でブラジルへ行くことを祖父の姉に報告した際、「昔、ブラジルへ行った家族がいるだよねえ…」と初めて教えてもらいました。祖父の姉の話によると、私の高祖母の弟家族が1927年にブラジルへ移住したとのことでした。しかし、それは祖父たちにとっても幼少期に聞いた「昔話」であったため、私や私の両親に語られることはありませんでした。

③ ブラジルで親戚に出会えた

偶然にも、祖父の兄の家に、48年前にブラジルから届いた手紙が保管されていました。私は、派遣事業で行われた在サンパウロ静岡県人会との交流で、その手紙の差出人を知る人を探しました。そして、幸運が重なり（書ききれないので割愛）、現在もブラジルのパラナ州で暮らす遠い親戚とビデオ通話をすることができました。



約100年ぶりに、しかも地球の裏側で家族がつながったことに、感動と喜びがあふれました。何より、ブラジルへ渡ったご先祖様の話を知らずにブラジルに興味を持ったことに、ご縁を感じています。このご縁を大学生活の集大成（卒論）として文字に残したいと思い、「ブラジルの日系社会における日本語教育」をテーマに、交換留学を通じて学びを深めようと考えました。

留学準備

留学が決まってから出国するまで、ちょうど5カ月間ありました。すべきことを一言で言ってしまうと「ビザとCPFの取得」ですが、それらの申請には航空券や無犯罪証明書、滞在先の確定など数々の書類が必要なため、早めに、そして計画的に取りかかる必要がありました。幸い、順調に書類を用意することができました。

しかし、ビザの取得には非常に苦勞しました。申請時に提出した書類の一つが引っかかってしまったのです。それでも、本当に多くの方にご協力いただき、出国の5日前、無事にビザを取得することができました。支えてくださった方々のおかげで、今の留學生活があります。心から感謝しています。

※CPF：ブラジルでの生活の様々な場面で必要となる個人情報番号。在浜松ブラジル総領事館で取得できる。

生活するのに必死だった最初の1週間

約24時間のフライトを経て、8月1日の夕方（ブラジル時間）、サンパウロに到着しました。到着して3日目、ショッキングな出来事が起こりました。昼間の11時頃に地下鉄で切符を買っていた時のことでした。路上生活者と思われる人に「お釣りを頂戴」と横から声をかけられ、言われるがままにお金を渡してしまいました。相手が武器を持っていない場合、物乞いを無視しても安全であることは知っていました。しかし、実際は恐怖で頭の中が真っ白になり、お金を渡して逃げることしかできませんでした。

お釣り以外に被害は何もありませんでしたが、精神的なダメージは自覚している以上にあったようです。どこへ行くにも外に出るのが怖くなり、一人でいると不安で涙が出ました。さらにその4日後、日本では南海トラフ臨時情報「巨大地震注意」が発令され、心配でたまらなくなりました。精神的に不安定な状態の中、USPへの通学と慣れない環境での生活に必死でした。

周りの人のやさしさに助けられる日々

不安で仕方がない毎日が続いていましたが、周りの人に支えられ、徐々に元気を取り戻すことができました。ブラジルの人は「やさしい」だけでは言い表せないほどに、いつも親身になってくれます。「外に出るのが怖い」と言ったら最寄り駅まで一緒に行ってくれたり、USPで教室の場所を尋ねたら事務室まで聞きに行ってくれたり…。あたたかいエピソードは数えきれません。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この一カ月を通じ、家族を残して移住した日本移民の人々や日本で暮らす外国の人々の気持ちが、少し理解できたように思います。全く知らない土地で生活することの大変さ、故郷にいる大切な人を想う気持ち、現地の人に助けてもらえた時の安心感。いつか私も、私を助けてくれた人々のようになりたいと強く思っています。

おわりに

留學前、私は“ブラジル＝治安がよくない”という印象を持っていました。しかし、その印象につながる背景を真剣に考えたことはありませんでした。考えたつもりになっていました。物乞いや強盗、麻薬によって生活資金を得ている人々の目に、家族に守られながら夢を叶えにブラジルへやって来た私はどのように映っているのでしょうか。ブラジルで生活し始め、貧富の差を毎日のように目の当たりにしています。ただ「治安がよくない」と恐れるのではなく、それを生み出してしまう社会構造を、留學を通じて理解していきたいです。

留學生活が始まるまでの前置きが長くなってしまいました…。今回は、USPの様子や日常生活について具体的にご報告できればと思います。